

林 重雄<sup>1</sup>：福井県にトウダイグサ科 *Omphalea* 属の種子の漂着Shigeo HAYASHI<sup>1</sup>：Seeds of genus *Omphalea* Euphorbiaceae stranded on the beach of Fukui Prefecture, Japan

トウダイグサ科は主に熱帯に分布し、世界では約300属7500種ほどが知られる大きな科である (Gunn and Dennis 1976). これまでに日本では漂着種子としてパラゴム *Hevea brasiliensis* Muell Arg., シナアブラギリ *Vernicia fordii* (Hemsl.) Airy Shaw, カントンアブラギリ *V. montana* Lour., アブラギリ *V. cordata* (Thunb.) Airy Shaw, ククイノキ *Aleurites moluccana* (L.) Willd., パプアアブラギリ *Omphalea papuana* Pax & K. Hoff., ジャマイカアブラギリ *O. aff. diandra* L.の記録がある (石井 1999; 中西 2011; 濱・茨木 2012). このうちパプアアブラギリとジャマイカアブラギリは稀な種で、これまで沖縄県のほか徳島県で報告されているだけである (中西 2011; 濱・茨木 2012). 今回、本州中部の福井県の海岸で両種の漂着を確認したので報告する.

## 漂着記録

筆者は2012年11月10日、福井県福井市蒲生町の海岸 (図1) で漂着物の調査中にパプアアブラギリ (図2) を採集した. 福井市蒲生町は越前海岸国定公園の中にあり、越前岬からおよそ8キロ北東にあたる. 蒲生町の西側は海に面し、秋から冬にかけ季節風が吹き出すと、漂着物が寄り集まりやすい場所である. 蒲生町ではこれまでにオウムガイ、ココヤシ、ゴバンノアシ、モダマ、マルミワニグチモダマといった南方系植物の種子や果実の漂着が確認されている (林ほか 2012). 発見時 (午前9時) の天候は曇、気温12.2°C、北東の風、風速1.8m/sであった. パプアアブラギリは海岸の低潮線の上に、プラスチック碎片を中心とした漂着ゴミと一緒に漂着しており、漂着後間もないものと思われた. 種子は偏球形を呈し、長径29.9mm短径27.6mm厚み20.6mmであった. また表面には藻類の付着が認められたが、エボシガイ類の付着は認められず表面の彫刻も明瞭に観察できた.

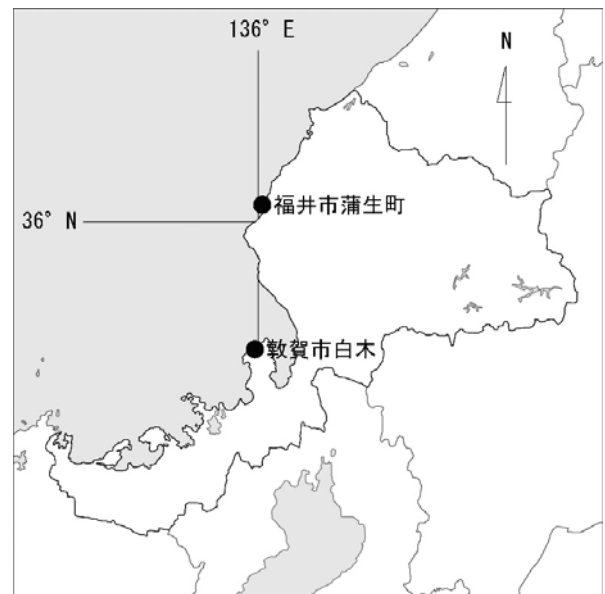


図1 福井市蒲生町と敦賀市白木の位置.

2012年11月24日、福井県敦賀市白木の海岸 (図1) では漂着物の調査中にジャマイカアブラギリ (図3) を確認した. 白木は若狭湾国定公園の中に位置し、敦賀半島の北部にあたる. 白木の北側は海に面し、冬には漂着物が寄り集まりやすい場所である. 発見時 (午前9時) の天候は晴れ、気温9.3°C、北の風、風速3.0m/sであった. ジャマイカアブラギリは白木の海岸の低潮線の上に、プラスチック碎片を中心とした漂着ゴミ類と一緒に漂着しており、漂着後間もないものと思われた. 種子は偏球形を呈し、長径25.7mm短径25.0mm厚み20.3mmであった. また表面には藻類、コケムシ類、カンザシ類の付着が認められたが、エボシガイ類の付着は認められず表面の細かな突起部も明瞭に観察できた.

図2 福井市蒲生町に漂着したパプアアブラギリ *Omphalea papuana* Pax & K. Hoff. の種子.図3 敦賀市白木に漂着したジャマイカアブラギリ *Omphalea aff. diandra* L. の種子.

## 考察

どちらの発見日においても、前日の気象データを見ると、夕刻より3~5 mの北よりの風が優勢で（気象庁ホームページ・気象統計情報）、おりからの季節風による吹送流によってもたらされたものと思われる。日本海側では秋から冬にかけて、北西の季節風が優勢になるにつれ漂着物が海岸に増えてくる。今回の2種の漂着例はいずれも晩秋の漂着物であり、冬の本格的な漂着シーズンに入れば大きな漂着物が増加して小型種子・果実類は見つけ難くなるため、日本海側で南方系種子・果実類の漂着調査するには晩秋が最も効率的であろう。筆者は2000年から定期的に福井県下の海岸で漂着物調査を続けてきたが、2007年秋から南方系種子・果実類の漂着が顕著になり、2012年の秋には大幅な増加となった。2012年の南方系種子・果実類の漂着増加は、太平洋側の愛知県渥美半島でも知られており（林 2012）、この増加は日本海側だけに限ったものではなく太平洋側でも観察されている。

今後も継続的な調査の際に、南方系種子・果実類の漂着に注目することで、海流による散布拡大や地理分布についての新たな知見が得られるであろう。

謝辞：本稿をまとめるにあたり北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。亜熱帯植物研究所の中西弘樹博士には学名の扱いについてご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

## 引用文献

- Gunn, C. and Dennis, J. 1976. World Guide to Tropical Drift Seeds and Fruits. 246pp. The New York Times Book Co, New York.
- 濱 直大・茨木 靖 2012. 徳島県に漂着したトウダイグサ科 *Omphalea* 属の種子. 徳島県立博物館研究報告 22 : 139-142.
- 林 重雄 2012. 海豆ミーティング2012@表浜. どんぶらこ 42 : 5-7.
- 林 重雄・八田真毅・兼田幸生・小寺仁美・高島直子 2012. 福井県福井市にオウムガイの漂着. どんぶらこ (39) : 1-3.
- 石井 忠 1999. 新編漂着物事典, 380pp. 海鳥社, 福岡.
- 気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/>)
- 中西弘樹 2011. 日本における熱帯起源の漂着果実と稀な種. 漂着物学会誌 9 : 1-5.
- (Received Mar. 22, 2013; accepted May 10, 2013)

<sup>1</sup> 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町 3-155

<sup>1</sup> 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan